

あったか〜い!

ふれあい食事会 11月9日

ふれあい食事会が町内70歳以上のお一人住まいの方42名をご招待し、来賓として南橘地区社会福祉協議会の岩崎会長にお越しいただき、荒牧町公民館で開催されました。

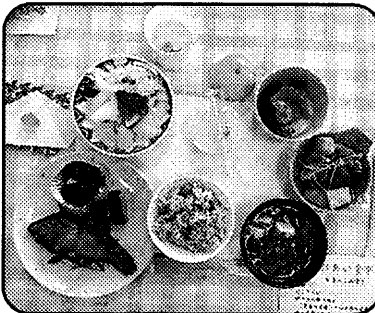
民生・児童委員、保健推進員の皆様による手料理を、参加者一同とてもおいしく頂きました。

食後にはアトラクションに移り、荒牧亭熊八師匠(柄澤利夫さん)による落語「道具屋」、そして、小泉勲さんのハーモニカ伴奏による全員での合唱11曲、その後プレゼント抽選会があり、和やかなうちにお開きとなりました。

皆さんには大変楽しく過ごしていただき主催者側としても「ひと安心」しました。



食事会の様子



手料理



料理を作ってくれた皆様

荒牧町だより

第185号
荒牧町自治会
広報委員会

荒牧町老人福祉

親善グランドゴルフ大会

この行事は、毎年、荒牧町老人福祉協議会の主催で行われる行事で、今年も10月14日(土)に実施されました。

当日は、雨が続いた翌日ということで、グランド状態が悪いため、グランドゴルフは中止になりました。

そこで、会場を荒牧町公民館に移して、表彰式と懇親食事会を行いました。ご用意した賞品等は、あみだくじを引く方法で配られました。その他、ホールインワン賞などの賞も抽選により配られました。

そのあと、民生・児童委員の皆さんが用意してくれた食事を美味しくいただきながら、楽しいひと時を過ごすことができました。

来年度はゲートボール大会の予定です、多くの皆様の参加をお待ちしております。



抽選会の様子



懇親会の様子

自治会掲示板

◇平成30年度荒牧町自治会副会長選出のための選挙が11月15日(水)に告示されました。

◇12月20日(水)第5回ふれあい・いきいきサロン「クリスマス茶話会」が開催されます。皆様のご参加をお待ちいたしております。

地区だより

下宿

下宿のゴルフコンペは、平成11年に第1回コンペが22名の参加者で前橋ゴルフ場にて盛大に行われたのがはじまりです。その後、第1回、2回は新ペリアルでハンデを算出し、第3回以降はハンデで行い、優勝〜3位はハンデをマイナスにして、高ハンデの方も優勝に繋がるよう工夫してきました。

第37回も平成29年10月21日に14名が参加してGCスカイリゾート(旧沼田スプリングス)で和気あいあいとプレーしました。

お楽しみは表彰式を兼ねた《飲ニケーション》で毎回盛り上がり、親睦と絆を深めています。



長寿会研修旅行

11月1～2日

今年の秋の研修旅行は、信州白骨温泉でした。三日入れば三年は風邪ひかぬと言われる白骨温泉「つるや旅館」。

1日目は、大王ワサビ農園の見学。そして、安曇野そば庄でお蕎麦の昼食をいただき、早めに宿に到着し、温泉を堪能したり、夜の宴会、カラオケを楽しんだりしました。

2日目は、明治からの老舗、亀田屋酒造店の見学。美味しいお酒を試飲して、おみやげもたくさん。お昼は安曇野スイス村で、せいりとワサビの2色蕎麦を楽しんで、無事帰宅しました。(古川)



宿の前で記念写真

南橋文化祭に出演

10月28、29日に南橋公民館で行われた南橋地区文化祭に、荒牧町からも舞台発表や展示発表に多くの方が参加しました。

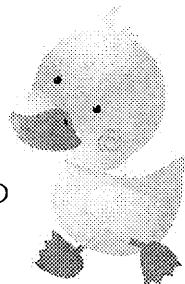
1日目は曇り、2日目は雨と、あまり良い天気ではありませんでしたが、たくさんの来場者があり、展示発表の力作に感心したり、見事なステージ発表に大きな拍手を送ったりして楽しんでいました。



荒牧町の皆さんのステージ

まちかど探検 〈No.45〉

《荒牧町》の誕生話だよ!

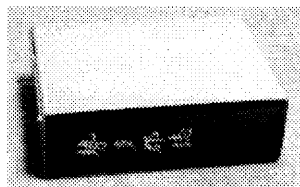


荒牧村から荒牧町へ

《荒牧》という地区は以前には勢多郡に属していた。

そこで『勢多郡誌』を調べると、

「一体、勢多郡という郡が置かれたのはいつであるかという、恐らく七世紀の中頃、大化の改



新の結果であろうと思われる、日本で政治上はじめての大変革が行われて、全国を統括して天皇の治下に画一の政治が実施されるようになった。そして国、郡、里というものを統一して定めたのである。その結果勢多郡という行政区画が起こったのである。

・・・しかし勢多郡の上代のことについて書き残されたものは極々少ない。」という記述があり勢多郡は意外に古い歴史があった。

そして、荒牧という地名についても色々変遷の歴史が語り継がれてきた。この中で鎌倉時代に記されたとされる『源平盛衰記』に源義経が奥州へ下る途中、伊勢三郎義盛という人物に「上野国荒蒔(牧)郷」で出合ったとあり、同時代の『平治物語』では松井田で出合ったとある。そして室町時代の『義経記』には義盛には板鼻で出合ったとされている。

これらは何れも物語作品であり、史実とは限らないが、かと言って荒牧郷を含めてすべてが全くの架空の話とも言えないのではないかと思う。

しかし、何と云っても《荒牧村》という名称がはっきりと史料に表れるのは江戸時代になってからである。同じく勢多郡誌によると、「・・・信長・秀吉の時代を経過し、江戸時代を迎え、近世封建時代を完成した。それは幕府を頂点とした封地関係によって構成された強固な支配体制の下に置かれた。・・・関東地方が徳川家康の手に帰した天正十八年以後、勢多郡における最初の支配者は平岩親吉が前橋藩主となり、荒

牧村を含めた七十八ヶ村を所領した。」とのが見える。

『群馬県百科辞典』にも前橋藩についての資料がある。「平岩氏に変わって酒井重忠が慶長六(1601)年に入城し、同じく荒牧村を含め125ヶ村を治めた。次いで寛延二(1625)年に松平朝矩が姫路より入封し松平氏は明治時代まで荒牧村を含め140ヶ村を所領した。しかし前橋藩は11代松平直克のときに明治四(1871)年廃藩となった。廃藩直前の所領は荒牧村も含め111ヶ村であった。」

明治維新を迎えそれに伴い種々の新制度が実施された。明治22年荒牧村を含め13村が統合され、橘山の南に位置することから「南橋村」が結成された。この時点で江戸時代より引き継がれてきた「荒牧村」は無くなり「勢多郡南橋村大字荒牧」となった。

二年後の明治24年の資料であるが、南橋村の戸数は912戸、人口は男2688人、女3000人で、大字荒牧は75戸、男218人、女233人であった。

続いて昭和29年9月にこの南橋村は前橋市に合併して村は消失し、各大字はそれぞれ新しい町となり、《荒牧町》等が誕生した。

昭和59年に、当時の都丸勝自治会長さん、丸山孝利さんが中心となり苦勞の末『町制30年誌』が刊行され、町の歴史がまとめられた。

現在では上毛大橋の開通、群馬大学の設立等、他町の方々からも羨ましがられる町へと発展してきた。

なお、市民課の話では、平成29年4月末日現在、この町は2327戸、人口は男2465人、女2573人となっている

(赤松昭光)

